

スーパーマンの孤独——《孤独はいつも黄金色》

望月 苑巳

スーパーマンといえばヒーローの元祖だ  
誰が何と言おうともぼくのヒーローだった  
空がとべたらいいな  
凄い力持ちだったらいいな  
不死身だったらいいな  
そんな願いを叶えてくれたから  
ヒーローだったんだ

飛べないスーパーマンに向かって  
子供たちは「飛べ！飛べ！飛べ！」と叫ぶ  
こぶしを振り上げ叫んでいる  
そこでヒーローは仕方なく苦笑い  
それから

泣き顔になる  
「どうしてスーパーマンが泣くの？」  
そして今度は子供たちが泣き出す番だ  
針金で吊られていたヒーロー  
真実はそんなもんさ

悲劇と喜劇は背中合わせ  
戦争と平和が隣り合わせと同じように  
それに気付かない人たちが  
大人になって戦争を始める  
こぶしを振り上げて  
ヒーローはいつだって悲しいものだ  
真実という器には  
いつも孤独だけが  
チャプチャプと注がれている